

協メテレ

ライフラインの未来をかたちに

展示会&セミナーで最新動向紹介

テレメータリング推進協議会(照井恵光理事長)は11月29日、大阪市の大阪産業創造館で展示会&セミナー「ライフラインの未来をかたちに2024」を開催した。

同協議会は平成6年の創立以来、LPガス産業へのIT技術の導入促進、特に集中監視システムの普及と有効利用を中心課題として取り組んでいる。

また低炭素社会の実現に向けた「エネルギーの見える化」、ガス燃焼器の運動状況監視による事故の防止、エネルギーや水道の使用量を計測することが高齢化社会の進展に伴う独居高齢者の孤独

死の防止などライフラインに関連するこれらの課題に対してもテレメータリングの普及と応用技術が解決の一助になると考えられている。

同展示会では9月の東



展示会には14社が出展した

京会場に次いで行い、出展した14社がテレメータリングの最新の動向や関連したLPガス事業に役立つ製品を紹介した。

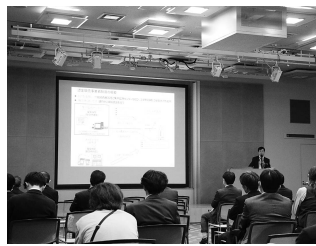
基調講演として、榎本

宏経済産業省産業保安・安全グループガス安全室室長補佐が「最近のLPガス保安行政の現状」について、テレメータリング推進協議会理事で東洋計器取締役の宮原清貴氏が「テレメ協30年。テレメの30年と今後」について講演した。

出展企業は、NTTデータ、インコーポレーション、東洋計器、東洋ガスメーター、東京ガスネットワーク、矢崎エナジーシステム、アズビル金門、愛知時計電機、ソフトバンク、STMマイクロエレクトロニクス、システムアンドリサーチ、アイネット、フレイミングエネシス、新コスモス電機。

セミナーは、ソフトバンクが「ソフトバンクのDX事例とガス業界への貢献」を、矢崎エナジーシステムが「ガス業界のDX推進について」を、AQライフが「EGG-NAVIを活用した請求業務コスト削減の提案」を、アズビル金門が「ア

ズビル金門クラウドデータサービスの取組み」を、STMマイクロエレクトロニクスが「STの最新Sub-GHzワイヤレスSoC」を、東洋計器が「超スマート社会の実現」を、インフォファームが「ガス業界の営業スタイルをDXで変革」を、愛知時計電機が「アイチクラウドの今とこれから」を、NTTテレコンが「未来はココから」テレコンビジネスプラットフォームが配送を変え」をテーマに行った。



榎本室長補佐の基調講演の模様